

第32回 画像センシングシンポジウム

The 32nd Symposium on Sensing via Image Information
(SSII2026)

発表募集 <http://ssii.jp/>

会期：2026年 6月 10日(水) ～ 12日(金)

会場：パシフィコ横浜 アネックスホール

発表応募期限：2026年 2月 27日(金)

採否決定通知：2026年 3月 13日(金)

カメラレディ原稿提出期限：2026年 4月 17日(金)

応募原稿：A4サイズ1ページから8ページ
カメラレディ原稿：A4サイズ2ページから8ページ

『人と知が紡ぐ、 センシングの未来』

【SSII2026での発表をおすすめする理由】

■高密度な情報収集・人材交流を可能にする

- 学ぶ：最先端技術の発表を日本語で聴講可能
- 使える：すぐに活用できる技術を習得
- つながる：学術・産業界からの多数参加者による交流

ごあいさつ

SSII2026実行委員長：山下 隆義(中部大)

『第32回画像センシングシンポジウム(SSII2026)』の論文募集を開始いたします。

SSIIは1995年の設立以来、画像センシング技術の発展を支える学術シンポジウムとして、産学の枠を越えた知の交流の場を提供し続けて参りました。おかげさまで、近年では1,500名を超える参加者を迎えるまでに成長し、当該分野における国内最大規模のシンポジウムとして広くご支持をいただいております。今回のSSII2026は、長年開催している『パシフィコ横浜』に戻り、2026年6月10日から6月12日に開催することとなりました。

SSIIの大きな特徴の一つは、画像センシング・AI技術分野の最新動向を“ワンストップ”で学べる場であることです。プログラムには最新の研究動向や押さえておくべき技術を一挙に把握できる『特別講演』、『チュートリアルセッション』、『技術動向解説セッション』など、充実した企画セッションを多数ご用意しています。また、毎年好評を博している『オーガナイズドセッション』では、いま注目の話題から現場の未解決課題に至るまで、多彩なテーマを取り上げ、多角的な討論を通じて展望を共有する機会をご提供します。

皆さまからご投稿いただき、採択された論文はすべて『インタラクティブセッション』でご発表いただけます。産業界や学術界の研究者・技術者と直接意見を交わし、研究・技術の深化を図ると共に、新たな連携を築く機会としてご利用いただけます。さらに、審査で高い評価を得た論文は『スポトライトセッション』での口頭発表により、その成果を全参加者に向けて広くアピールいただけます。

SSII2026のスローガンは“人と知が紡ぐ、センシングの未来”としました。AIの著しい進化により、私たちの生活様式は大きく変化しています。AIの力を活用することで、人の知はさらに深化し、新たなイノベーションが次々と生まれています。こうした変化は、より豊かな社会の実現へとつながっていきます。その中で、画像センシング技術はこれらの発展を支える基盤として、極めて重要な役割を担っており、さらなる進化が求められています。『参加者のための学術集会』というSSIIの理念を大切に、皆さまにとって実りある学びと交流の場であり続けるよう、実行委員一同、全力を尽くしてまいります。

多くの皆さまの積極的なご参加と論文のご応募を、心よりお待ち申し上げます。

■本シンポジウムの目指すもの、発表論文の内容

本シンポジウムは、画像センシング技術を軸として、機械学習・パターン認識・人工知能(AI)などの分野に携わる方々が結集し、研究発表および議論を行う「良き場」となることを目指しています。

上記の分野にインパクトを与える先進的な基礎研究や挑戦的な問題提起から、今そこにある実課題への取り組み、現場での実利用に欠かせないノウハウやエンジニアリングに関する内容まで広く論文を募集いたします。

■インタラクティブ&スポットライトセッション

発表者と参加者の自由な研究コミュニケーションの場となるインタラクティブ&スポットライトセッションの発表を募集いたします。SSII2026では、現地会場において対面のインタラクティブセッションを開催します。また、全投稿論文の中から選定された論文は、インタラクティブセッションに加え、現地会場で開催されるスポットライトセッションにおいて口頭発表を行っていただけます。インタラクティブ&スポットライトセッションでは、先進的な研究の発表のみならず、実利用を想定したシステムや創造的な工夫、実用化された特許など、大学・研究機関ならびに企業の方からの発表も多数お待ちしております。また、国際会議等での既発表の内容であっても、論文を投稿いただけます。ぜひ、先進的な研究成果をSSIIの場で活発にご議論いただければと思います。

SSIIでは2007年以降、発表者と参加者がインタラクティブに議論することこそが、皆が集結する会議の本質であるという考えのもと、インタラクティブセッションを最も重視した運営を行って参りました。SSII2026でも、発表者の皆様に集中して議論していただくために、現地会場での対面インタラクティブセッションを実施いたします。

また、SSII2024からは、優れた研究成果をより広くアピールしていただくために、選定された論文について口頭発表を行っていただくスポットライトセッションを設けております。SSII2026でも、現地会場においてスポットライトセッションを開催いたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の再拡大などの理由により現地会場でのインタラクティブ&スポットライトセッション開催が不可能となった場合は、オンラインを中心とした開催となる可能性があります。

■応募方法および提出資料

発表応募および各種発表資料の提出は、Webサイト(<http://ssii.jp/>)で受け付けます。それぞれの書式もWebサイトからダウンロードできます。

発表応募時に、発表内容をA4サイズ1ページ～8ページにまとめた応募原稿をご提出ください。応募原稿に対し査読を行い、採否を決定します。

採録された発表の提出資料は、カメラレディ原稿(A4サイズ、2ページ～8ページ、PDF形式)に加えて、ポータルサイト掲載用の資料を予定しております。詳細はWebサイトをご確認ください。

■優秀発表の表彰

SSIIでは発表に対し、以下の表彰を行います。

(1)SSII学術賞

インタラクティブセッションで発表された論文の中から、実用性・完成度・社会波及効果・プレゼンテーションなどのインパクトを総合評価し、優秀な論文を表彰いたします。

(2)SSIIオーディエンス賞

インタラクティブセッションの発表の中から、聴講された参加者の皆様の投票をもとに優秀な発表を表彰いたします。

(3)画像センシング技術研究会高木賞

SSIIの創始者である故高木幹雄先生のご功績にちなみ、過去のSSIIで発表された研究成果の中から実用化の観点で社会に大きく貢献したものを画像センシング技術研究会高木賞として表彰いたします。募集要項はWebサイトをご覧ください。

■SSII2026についてのお問い合わせ

【画像センシング技術研究会 事務局】

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27 アドコム・メディア(株)内
Tel：03-3367-0571 Fax：03-3368-1519 Mail：info@ssii.jp

SSII2026では、この活動にご賛同くださり、ご支援いただけるスポンサーを広く募集しております。詳しくはWebサイト(<http://ssii.jp/>)をご覧ください。参加者との交流を図るスポンサーブース等のイベントを計画中です。ぜひご検討ください。

■チュートリアルセッション

画像センシングに関する基礎理論や実用化が進む注目の技術、今話題のホットな技術について、第一線でご活躍の講師陣にわかりやすく解説いただきます。

■技術動向解説セッション

国際的な研究フィールドでアクティブに活躍されている若手トップ研究者をお招きし、世界最先端の技術研究動向をまとめて一挙に解説いただきます。今まさに世界中が注目している最新技術や押さえておくべき動向を日本語で知ることができるチャンスです。

■オーガナイズドセッション

実応用から基礎まで画像センシングの新しい応用&技術革新について期待が高まるテーマを選びすぎります。

■特別講演

画像センシング関連分野をリードする第一人者をお招きし、技術革新や未来への展望に関するご講演をいただきます。SSII2026では2件の講演を予定しております。ご期待ください。

■参加費

- 一般(発表、現地聴講)：30,000円(35,000円)
- 学生(発表、現地聴講)：8,000円(10,000円)
- グループ(発表、現地聴講)：60,000円(一般3名分)※5月15日締切

※すべてのプログラムが聴講可能な参加プランです。

また特に企業の方に好評なグループ登録もご利用いただけます。
※参加費は5月15日までにWebにて事前登録していただいた場合となります。
5月16日以降のお申し込みについてはカッコ内の金額となります。
※早めのお申し込み手続きをお待ちしております。

■展示会

1階の展示ホールでは、併設展示会「画像センシング展2026」(入場無料)が開催されます。ぜひ併せてご来場ください。

●画像センシング展2026

お問い合わせ：アドコム・メディア(株) 展示会事業部 Tel:03-3367-0571
<https://www.adcom-media.co.jp/iss/>

■主催：画像センシング技術研究会

会長：藤吉 弘亘(中部大)

【協賛】(予定)映像情報メディア学会 応用物理学学会 可視化情報学会 画像電子学会
計測自動制御学会 人工知能学会 情報処理学会 精密工学会 電気学会
電子情報通信学会 日本印刷学会 日本顔学会 日本生体医工学会 日本機械学会
日本航空宇宙学会 日本材料学会 日本写真学会 日本写真測量学会 日本超音波医学会
日本バーチャルリアリティ学会 日本非破壊検査協会 日本リモートセンシング学会
日本ロボット学会 溶接学会 レーザー学会

【協力】(予定)電子情報通信学会 パターン認識・メディア理解研究会
情報処理学会 コンピュータビジョンとイメージメディア研究会
精密工学会 画像応用技術専門委員会
電気学会 非整備環境における知的センシング技術調査専門委員会

■SSII2026実行委員会

実行委員長：山下 隆義(委員長:中部大)

◆実行幹事：原 健翔(産業技術総合研究所)、金子 直史(東京電機大)、
平川 翼(中部大)

◇運営委員会：秋月 秀一(委員長:中京大)

◆財務部会：山口 友之(部会長:筑波大)、坂村 祐希(副部会長:日本自動車研究所)、福田 悠人(顧問:群馬大)

◆庶務・会場部会：中野 学(部会長:NEC)、鈴木 亮太(副部会長:埼玉大)、
亀田 裕介(顧問:上智大学)

◆広報部会：西村 和也(部会長:国立がん研究センター)、
Hao Guoqing(副部会長:青山学院大)、
カストナー マーク アウレル(顧問:広島市立大)

◆出版部会：川原 僚(部会長:京都大)、
榎並 直子(副部会長:武庫川女子大)、西村 仁志(顧問:KDDI総合研究所)

◆リエゾン部会：清水 彰一(部会長:三菱電機)、
宮澤 一之(副部会長:GODライブ)、青山 秀紀(顧問:パナソニックホールディングス)

◇プログラム委員会：佐藤 育郎(委員長:東京科学大/デンソーアイティラボラトリー)、
川上 玲(副委員長:東京科学大)、松富 卓哉(副委員長:京都大)

◆チュートリアルセッション部会：五十川 麻理子(部会長:慶應義塾大)、
千葉 直也(副部会長:大阪大)、大倉 史生(顧問:大阪大)

◆オーガナイズドセッション部会：八木 拓真(部会長:産業技術総合研究所)、
進矢 陽介(副部会長:ピンエーアイテクノロジー)、南里 卓也(顧問:日産自動車)

◆インタラクティブ&スポットライトセッション部会：
相澤 宏旭(部会長:広島大)、
Qiu Yue(副部会長:産業技術総合研究所)
鈴木 智之(顧問:サイバーエージェント)

◇表彰小委員会：入江 豪(委員長:東京理科大)、山下 隆義(顧問:中部大)

■組織委員会

青木 義満(慶應義塾大)、石井 雅人(Sony Research Inc.)、石山 豊(日本電気)、入江 豪(東京理科大)、浮田 浩行(徳島大)、内田 祐介(GODライブ)、
梅田 和昇(中央大)、大橋 剛介(静岡大)、奥富 正敏(東京科学大)、
片岡 裕雄(産業技術総合研究所)、加藤 邦人(岐阜大)、斎藤 英雄(慶應義塾大)、佐藤 雄隆(産業技術総合研究所)、清水 彰一(三菱電機)、清水 毅(山梨大)、鷺見 和彦(青山学院大)、諏訪 正樹(オムロン サイニック エックス)、
田中 正行(東京科学大/産業技術総合研究所)、田藤 雅基(パナソニックコネクト)、寺田 賢治(徳島大)、長原 一(大阪大)、中村 克行(日立製作所)、野口 稔(日立ハイテク)、橋本 学(中京大)、藤吉 弘亘(中部大)、堀 修、増田 誠(沖電気工業)、満倉 靖恵(慶應義塾大)、門馬 英一郎(日本大)、
山下 隆義(中部大)、横山 敦(京セラ)

名誉顧問：中島 真人(慶應義塾大)

顧問：興水 大和(中京大/YYCソリューション)

監事：久野 義徳(埼玉大)、金子 俊一(華為技術日本)

第32回 画像センシングシンポジウム

The 32nd Symposium on Sensing via Image Information

SSII2026

2026年 6月 10日(水) ~ 12日(金)

パシフィコ横浜 アネックスホール

発表募集

Call for Papers

発表応募期限：2026年 2月 27日(金)

採否決定通知：2026年 3月 13日(金)

カメラレディ原稿提出期限：2026年 4月 17日(金)

応募原稿：A4サイズ1ページから8ページ

カメラレディ原稿：A4サイズ2ページから8ページ



<http://ssii.jp/>